



今号も基金の子どもたちから、「エコ活動」に関する投稿がたくさんあるよ!

※「ECOko」とは環境問題を考える子ども達、Ecology+Kodomoの造語です。

こどもたちの夢よとどけ
Dream museum
夢美術館



イラスト・西川 武志 ※夢美術館はこどもたちの感動や夢を展示する仮想美術館です。

崩れていく自然のパズル 現実を実感して環境を守ろう



地球環境が破壊され、自然が失われている様子を、パズルのピースで表現しているのがすごい。

もう絵を出す機会はないかもしれませんが、これからも環境保護の活動を続けて行く夢みる子ども基金のため、少しでも役に立てたらと思います。

この絵は自然のパズルが崩れていっているところを描いています。地球上の自然もこのパズルのようになくなっていくことを感じ、これを防ぐことを訴えるために描きました。

自然の景色はけっこうきれいに描けたと思うのですが、パズルが崩れていっている様子はとても難しく苦勞しました。

西川 武志
大阪府
松原第三中学校3年
第12・13・14回生



「夢みる子ども基金」のホームページが新しくなりました。

リニューアルしてサイトが見やすくなりました。「環境子ども新聞・エココ」の投稿がホームページからも出来るようになっています。ホームページの内容は次の通りです。

- 1 基金の活動を分かりやすくカテゴリー分けしました
●社会福祉活動 ●環境保護活動 ●海外教育支援活動 ●海外医療支援活動
- 2 個々の活動を細分化して掲載、それぞれの最新情報を更新しやすくなりました。
- 3 「環境子ども新聞・エココ」の投稿がホームページから出来るようになりました。
- 4 「夢みる子ども基金だより」「エココ」がホームページ上で読めるようになりました。

その他、新着情報も随時更新していきます。

「夢みる子ども基金」のホームページは下記アドレスからご覧下さい

URL: <http://www.yumemirukodomo.jp>



Webでの検索は

歯医者さんありがとう! 私たちのキャンペーンは歯科医院
などから提供していただいた金属冠で支えられています。

- | | |
|----|--|
| 2面 | 「森の循環、人の循環」(岡部善和)、イラスト(升田美務)
「ふたつのベッド〜ゴザと廣品ソファー〜」(岡部達美) |
| 3面 | 「環境インタビュー⑤」(堀江健一郎)
「隆世のエコ生活⑤」(中原隆世)/eco4コママンガ(須井悠介) |
| 4面 | 「私の環境活動」(崎津舞香)
あとがき(堀江健一郎)/原稿募集/おことわり |

森の循環 人の循環



日本の美しい森を守るには、全国の「人の力」が必要

岡部 憲和
東京都立大附属
教育学部 6年生
10・11・12年生



僕はいま、森を守る活動をしています。間伐、除伐、枝打ち、下刈り等。森での作業はたくさんあります。また、森は斜面が多く、足場が最悪です。相当、人手も必要です。

「日本は世界でも数少ない、緑の美しい国です。しかし、それがいま放置されてしまっている。人の手によって保護されていない。昨年2月に東京・青山で行われたC・W・ニコル先生の講演会での言葉です。世界中を見て来られた人の言葉だからこそ、僕は重みを感じました。そして僕は、この時初めて、美しく見える日本を森が本当は荒れていることを知ったのです。森の荒廃を知ったため、日本中の森を歩き始めました。

まず僕は、東北地方に向かいました。秋田県角館の秋田杉へ。そこは、日本三大美林のひとつです。さすが、美林と呼ばれるだけあって、見た感じでは何も問題はありませんでした。この森を管理している方から早速話を伺いました。

「ここはいい森だ。いい杉がたくさん植わっている。でも、昔と比べて森に入るとは減った。昔は、杉の木一本売るだけで秋田から東京まで行って、一晩酒飲んで帰って来られた。それが今は一本千円にも満たな

い。人が減ったのもよくなるさ。この美しい森にも人の手が遠ざかりつつあるというのでした。次に向かったのが関東地方の森。まずは、千葉県の原市、鶴舞の森。僕が普段活動している森です。毎月この森に行き、間伐をしたり、植樹をしたりと、作業をしています。しかし、これも人の手が入らないことによる荒れが目立ちました。

次は東隣の千葉県の茨城県、み市の里山。ここは僕が生まれる前、僕の祖父が手入れしていた森です。しかし、今では丈が1メートルもあるような草がぼうぼうと茂り、人が入るのさえ困難な状況です。だから、僕たち家族はいつもただ草を刈るのみです。草むらの奥から見える真つ暗な森の中には、間伐しなければならぬ木が山のようにあるのです。祖父が手入れをしなくなると、わずか数十年。それだけで森は激変してしまうのが悲しいほどわかりました。

次いで、関東北部にある群馬県上野原の森。ここには、『お化けの森』と呼ばれる森があります。

「ここは木を植えた後、人が何もかまわなかった。森の木が多すぎて太陽の光が当たらない。ひよろひよるとした弱そうな木がたくさん生えているでしょう。人が手

を入れないと森はこうなってしまう。案内の方から悲しい説明が続きました。そして最後は九州北部、福岡県八女郡矢部村の森。戦後の政策で杉はたくさん植えたの。それがいま育ち過ぎちゃっている。森の詩人、椎名猛先生から伺った話です。僕の見たところのある杉ではなく、細長くひよろひよとした枝の杉が無数にあふれていました。さらにこれらは、複数の木の枝と枝が絡み合いながら成長している、どかどか一本のかわりません。山頂に着きました。見渡す限り、山、山、山。まさに絶景でした。ところが山にはけいている部分があり、弱々しく生えている木々の群も見えました。こんな見事な光景の森にも、手入れをしなければ影響が現れていたのです。

要だと。森の現状を国民がしっかりと知る必要があると思ったのです。では、どうしたらよいか。たとえば、児童・生徒に、山菜採り、たけのこ掘り、植樹・間伐などを体験させるのはいかがでしょうか。オーストラリアの原生林のように森の近くにゲストハウスを作ったり、日本各地に置き去りにされている山間の廃校跡を森林体験の学校にするのもいいと思います。修学旅行の行程に、森林散策や森づくり、森に囲まれた農山村の民家に宿泊する等の企画を盛り込んでいかげんかでしょうか。

さらに、木を喜んで育て、喜んで買う。そんな生産者と消費者の心の一体化が必要だと思のです。たとえば、こんな仕組みはいか入ればよいか。木を苗から育て、5か所歩いただけでそれらすべての森で人の手が遠のいてる影響が見られました。行政の政策上の問題と言わざるを得ない面があることを知りました。

戦後、政府はとにかく家を建てるため、材木となる杉をたくさん植えることを奨励しました。だから、林業の方々は植えに植えまし。そこまでの図式は正解でした。しかし、その後次第に復興が進むと、今度は日本に杉よりも安い海外の木に日本の企業は手を伸ばし始めたのです。当然、値の張る日本の杉の需要は減って行きました。そして、人は森に入らなくなりました。僕は強く思いました。

でしっかりと活動続けるしかない。今の日本の森を守る方法は、人が手を加える他はないのです。日本の美しい森を守るには、日本全国の人の力が必



イラスト
升田 菜緒
福岡・与原小学校5年
第15回生

『地球環境を守る日』 を实践する

ふたつのベッド ～ゴザと廃品ソファー～



岡部 達美
東京都立
田柄高校1年
第13・14回生

第1章 「ふたつのベッド」

今から9年前、新聞が北極の水床の一部が融けたと報じたことをきっかけに、私たち家族は地球を守るために毎週日曜日を『地球環境を守る日』と決めて、電気を使わないことなどを実践していることを創刊号で紹介しました。

『地球環境を守る日』にも曲折がなかったわけではありませんが、結果的にずっと貫いてきたのは、電灯を全く付けないこと、夏はクーラー、冬は暖房を一切使わないことでした。これだけきつい対策を、強く支援してくれたのがありました。ベッドです。私の家のベッドは季節によって変化するのです。夏はゴザ、冬はソファという具合に。それは、その時期によく合う眠りを醸し出してくれます。

この試みが一番辛いのは夏の夜、寝苦しいこと。それがゴザになれば、布団特有の暖かさがなくなり、涼しく感じられるのです。我が家では、夏場はい草のゴザをマットレスの上に敷いて寝ています。い草には独特の効能があると言われています。弾力性に富み、い草内部は潰れても再び膨らみま。丈夫で長持ち、硬くて滑らかです。だから、踏み心地がよく、硬過ぎず、柔らか過ぎず、足腰に優しいのです。また、湿度が高いときは水分を吸収し、乾燥すると水分を放出する、湿度の調整作用があり、勿論、穏やかな色調と自然な香りが心地よ

さを演出し、リラクゼーション効果も抜群です。驚くような効能もあったのです。現在、私たちが生きている環境には、雑草、自動車や工場から排出された有害物質(例えば窒素酸化物や揮発性有機化合物)が存在しています。ところが、い草は空気汚染の原因や人間の健康に悪影響を及ぼしているホルムアルデヒドや二酸化硫黄を吸収し、二酸化窒素を吸着浄化してしまっているのです。空気の自然浄化作用が、い草にはあるのです。そして、抗菌性まであったのです。(注)

また、夏ほどではないにしても、寒さがこたえるのが真冬。そこで、我が家は窓をすべて断熱ガラスに変えました。そして、我が家の冬の試みを支えてくれるもうひとつのベッドがあったのです。

第2章 「もうひとつのベッド」

実は『地球環境を守る日』より前から、我が家ではもうひとつの地球環境を守る活動を行って来ました。それは「ゴミ対策。生活の仕方を変えていかないといけない」と気付き、そこで、ゴミを減らすにはどうしたらよいか話し合いました。その結果、出た案がリサイクルの徹底と祖父の考えに基づいた生活の仕方追求でした。

祖父は生前、私たちが何かをねだると決まっていた話でした。「欲しい物はおいさんも買ってあげたい。でも、本当に必要な物が出て来た時、お金がかかったらどうだろう。だから欲しい物と必要な物をしっかりと区別することだ。私は祖父の考えが、省資源に直結することを後々知りました。それ以来、我が家の

はゴミが生活の基軸となりました。5年前、ソファがくたびれて来たので買い換えました。ところが、20年前の購入者である父は捨てたくなさそうでした。そこで、私はソファを私にくださいました。父の喜びようはありませぬ。

私には考えがあったのです。『地球環境を守る日』を実践するうえで、夏の暑さと冬の寒さは非常に辛いものなのです。特に寝る時、電気なしの生活は厳しい暑さや寒さに私たちを直面させることになりませぬ。そんな時、ゴザの涼しさと並んで、冬場に暑よりソファで眠る方がぐっすり眠ることができるようには感じました。

まず、床より離れているので暑より冷気や湿気を感じずに眠れるように考えました。また、私は横向き寝の方が仰向きに休むより好きです。ソファの狭い面積なら、間違いなく横寝になるはず。問題は寝返りの多さ。狭い面積で出来るのが少し不安でした。

早速、ソファを2つにつけて寝てみました。予想通り、布団と比べ格段に寝やすいです。ただ、布団やベッドと比べると極端に横幅が狭く、慣れるまでにはかゆ布団がズルズル落ちて行ってしまう、寒い思いをすることもありませぬ。さらに、ソファとソファのつなぎ目がどうしても溝になってしまい、背中が痛い。ただ、慣れれば不思議なもので寝返りが十分できるのです。総じてみると、布団とは段違いにぐっすり眠ることが出来ました。疑似ベッドの効用は私の予想を超えました。

(注) 畳メーカー(福岡県)株式会社、イケヒコ・コーポレーションの説明より。

家族で練り広げるスローライフ 自分にできることを行動に!

崎津 舞香 大阪府・大阪女学院高等学校1年 第14回生

環境の輪を広げていくことが大事、それを気付かせてくれたのが「ハチドリ」の民話



私が最初に出会った言葉は「スローライフ」ではなく、「ロハス」という言葉でした。今から7年前、私が小学校3年生の時、一冊の「みどりの小道」という環境日記を学校からもらいました。これは、環境について学んだこと、調べたこと、そして実際に行ったことを3か月間、日記を毎日書くというものです。当時、世間では、環境問題について現在のようには重視されておらず、学校の先生も指導

方法が分からず、私は図書館に通い環境について調べた。今から7年前、私が小学校3年生の時、一冊の「みどりの小道」という環境日記を学校からもらいました。これは、環境について学んだこと、調べたこと、そして実際に行ったことを3か月間、日記を毎日書くというものです。当時、世間では、環境問題について現在のようには重視されておらず、学校の先生も指導

一つめは、積極的に人に伝える努力です。これを「ハチドリ計画」と名付けました。まず最初に家の前を流れる川掃除を弟と2人でしました。すると、それをみていたとなりの兄妹が参加するようになり、4年生になった時、活動が評価され、私は環境親善大使としてスウェーデンを訪問しました。環境問題が世界的レベルであることを痛感し、ここで得た全てを一人でも多くの人に伝えよう、さらにハチドリ計画の作戦を練ることにしました。この頃からエコクラブも毎週日曜日に活動し、川掃除の他、町や登山清掃に加え学習会を開き、環境新聞や絵本を作り幼児期の子どもたちでも理解できる工夫をしました。また、環境フェアや会議、弁論大会などに積極的に参加するようになると、エ



アジア子ども環境会議に参加した崎津さん(右から一人目、平成19年7月)

まず最初に、家の前の河川を弟と二人で掃除しました、すると隣の家の兄妹も参加するようになり、環境レスキュー隊を発足しました

コクラブのメンバーも15名まで増加していました。二つ目はゆっくり過ごすことが環境問題解決の糸口と考え、家族で楽しめるように提案したのが「タイムスリップ計画」です。手本になったのが近所に住む祖母で、一日1時間のローソク生活などを取り入れ、実行しています。たとえば、食事や読書時にローソクの灯りで過ごすのですが、食事はそれなりに雰囲気があります。また季節によっても起床時間が変更したり、部屋の模様替えはもちろん夏は涼しい北側の部屋に移動したりと極力電力を使用しない工夫をしています。その他も電気を使用しないよう心掛けるなど必然的に家電製品が消えていきました。ポット、ジャーなど。玄関や廊下の電球も2つあれば1つに減らし、お風呂は「露天風呂」と言ってお風呂を点けず入ります。「光」が人々と自然の間の中で重要であること。私は祖父に習って自宅の庭に小さな菜園を作りま

あとかき

私たちの新聞の力で環境を守りましょう

堀江 健一郎

福岡県・城南中学校3年 第14・15回生

頼もしい仲間たちの協力

さて、2010年暮開け第5号ECOkoをどのように感じ、受けとめて頂けるのでしょうか。

2008年10月に創刊号を発行して以来、寄せられるイラスト・投稿も増えてきているようです。僕達『夢みる子ども基金OB・OG会』では今年も、年4回発行を予定しています。ひとりひとりが、地球環境について考え、行動し、それを記事やイラスト・漫画にして送ってきます。みんなが一同に会するのが難しいのが現実。だからこそ、この「環境子ども新聞・ECOko」が生きてくるのです。それぞれの行っている活動や意見を発表する場です。OB・OG会の中原さんは毎回『隆世のエコ生活』で自分の生活の中の環境問題に関する考えや工夫を書いてくれます。また、エコファミリーの代表とも言える岡部さん兄妹も自分達の活動、体験をいつも投稿して下さい。そして、今回僕が取材させて頂いた平松沙真(さちま)さんも、形は違っても目指すものは僕達と一緒にです。

今年はいよいよ『夢みる子ども基金の森』づくりが実現します。2年前に子ども会議で「地球環境を守ろう!」と話し合ったことが1つ1つ実行に移されています。でも、まだまだ始まったばかりです。前進し続ける為にも、是非皆さんのパワーを寄せて下さい。

◎おことわり：この新聞は子どもたちの原文に基づいて作成しています。一部には筆者の事実誤認などがあるかもしれませんが、地球温暖化防止・環境保護に取り組む子どもたちの熱意と努力を読み取って頂きたいと思ひます。

● 投稿・問い合わせ先 ● 夢みる子ども基金事務局

〒810-0042 福岡県福岡市中央区赤坂1-12-6-2F ☎092-751-0021
e-mail: jimukyoku@yumemirukodomo.jp FAX 092-751-0249
URL: http://www.yumemirukodomo.jp

「環境子ども新聞・ECOko」への投稿お待ちよ!



「環境子ども新聞」のなまが新しくなりました!

ECOkoとは環境問題を考える子ども達 Ecology+Kidomoの造語です。

新聞作りに参加して下さい

子どもたちの手による「環境子ども新聞・ECOko」も発行することになりました。基金のOB・OG会の会員はもちろんです。それ以外の子どもたちも新聞づくりに加わって来てほしいです。新聞づくりの輪をもっと広げて行きたいと思ひます。「環境」に関することならなんでも結構です。日々の生活の中やグループ活動などで、皆さんが実践体験していることや環境保護についての意見などを寄せ下さい。そのようなら、イラスト、漫画はカラーでお願ひします。投稿者の氏名、所属(小・中・高校名と学年)、住所、連絡先を明記して顔写真を付けて基金事務局へ送って下さい。原稿写真は基金のホームページからも投稿できます。イラスト、漫画は郵送をお願い致します。社会人の方でも結構です。「環境子ども新聞・ECOko」は年4回位の発行を予定していますので、随時受け付けています。